

くろかわ 桜咲くプロジェクト



令和3年7月

名古屋市 北区役所

名古屋市 北土木事務所

くろかわ 桜咲くプロジェクト

目次

1. 趣旨説明	1
2. くろかわ 桜咲くプロジェクトとは	2
3. 黒川の桜の現状と課題	3
4. ワークショップメンバー(地域の皆さま)の意見	6
5. 保全計画	7
①土壌改良	8
②剪定	11
③危険木の伐採	15
④病害部位の除去	16
⑤虫害部位の確認・処置	17
⑥周辺環境の維持	18
⑦更新	21
6. 行動計画	22

1. 趣旨説明

(1) はじめに

黒川の桜は、昭和 29 年（1954 年）から市民の手により植栽が開始されたと言われています。

初期に植えられたソメイヨシノは樹齢が 65 年に達していて、現在は衰弱傾向にあります。

くろかわ 桜咲くプロジェクトは、黒川の桜の保全に向けて行う「保全計画」と市民の方が活動できることを示した「行動計画」をまとめたものです。



(2) これまでの経緯

黒川の桜を次世代に引き継いでいくため、地域の皆さまと協働で平成 23, 24, 30 年度に桜の健全度調査が実施されています。

また、平成 30 年度末には、「黒川の桜のおはなし会」が行われ、参加した方からは「桜を守っていくために、北区全体が協力していかないといけない」といった意見がありました。

(3) くろかわ 桜咲くプロジェクト策定に向けたワークショップ

くろかわ 桜咲くプロジェクトに向けて今年度、ワークショップを合計 3 回企画しました。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響から中止となったため、ワークショップの開催に替えて事務局で検討した資料の配布を行いました。

また、黒川沿川の学区で活動されている方々の意見をいただき、計画作成を進めました。

(4) 意見を確認した皆さま(ワークショップメンバー)

- ・黒川沿川学区にお住まいの皆さま
(飯田・名北・辻・杉村・大杉・清水・金城・東志賀)
- ・ロマン黒川の会
- ・街道を楽しむ会
- ・名古屋城北ライオンズクラブ
- ・愛知学院大学

2. くろかわ 桜咲くプロジェクトとは

くろかわ 桜咲くプロジェクトは、主に行政による樹木保全(保全計画)と、桜を守る市民活動(行動計画)の両輪で取り組むものです。

行政(北区役所、北土木事務所)と地域の皆さまで協力して、黒川の桜の保全に取り組んでいきます。



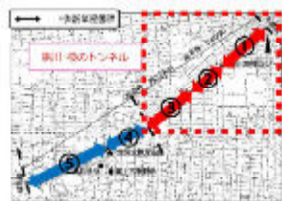
3. 黒川の桜の現状と課題

黒川の桜は、平成 23、24、30 年度に健全度調査が行われています。

この時の調査では、サクラはやや衰弱傾向にあり、特に御用水跡街園と右岸側のカンザンが衰弱傾向にあることがわかりました。

今年度行った現状確認調査では、現在も樹勢の弱いサクラが多いことがわかり、病虫害の蔓延により、その後、伐採されたサクラもありました。

黒川の桜の現状と課題を次のページにまとめます。



- ★凡例
- I 良
 - II やや良
 - III 不良
 - IV 著しく不良
 - V 枯死寸前
 - 調査時存在せず

※平成30年度黒川の桜保全プロジェクト
サクラの健康診断 結果報告書 調査結果



＜③ 木津根橋～猿投橋＞

- ・樹勢が弱いサクラが多い。(木津根橋から桂見名人道橋)
⇒【樹木医アドバイス】
「施肥」「根囲い+土壌改良」が必要。
- ・幹からのヒコバエ^{※3}が出ている木が多い。(全域区間)
⇒【樹木医アドバイス】
樹高を維持したい場合は落としたほうが良い。



写真④ ヒコバエ

- ・【樹木医アドバイス】
枝を更新して樹勢回復したい場合は、延ばす枝を選別したほうが良い。(全域区間)



写真⑤ 延ばす枝の選別(男定)

◆用語の説明

- ※1 ネコブセンチュウ：センチュウの一種で、体長は1ミリ以下の虫。日本中に広く分布しており、根にこぶを形成し根を食み付け増殖し、放置していると、発生された植物は生育が止まり枯れてしまう。
- ※2 ヒトリ生え：近くの木から飛んできたり、鳥などが運んできた種から発芽したものを。
- ※3 ヒコバエ：切り株や木の根元から出る右足のこと。
- ※4 根腐病：幹や根の途中で身が腐ること。

＜② 瑠璃光橋～木津根橋＞

- ・健全なサクラもあるが、がんしゅ病が発生している箇所もある。(黒川2号橋付近)
- ・サクラ以外の樹木が剪定されていて、状態が良い。手入れされた理想的な環境となっている箇所もある。(木津根橋【左岸側】付近)
- ・【樹木医アドバイス】
ヒトリ生え^{※2}のムクノキやセンダン^{※4}は切った方がよい。(木津根橋【右岸側】付近)



写真③ サクラ以外の樹木の剪定

＜① 夫婦橋～瑠璃光橋＞

- ・根頭がんしゅ病に感染しているサクラが多く見られた。(全域区間)



写真① 根頭がんしゅ病

- ・根頭がんしゅ病が蔓延してカンザンが姿を消しつつある。(新堀橋から北岸橋)



写真② 姿を消したカンザン

- ・カンザンは深植えの傾向がある。(新堀橋から北岸橋)
⇒【樹木医アドバイス】
土壌にネコブセンチュウ^{※1}がいるので(土壌を置き換ええない限り)苗木を育てても育たない。

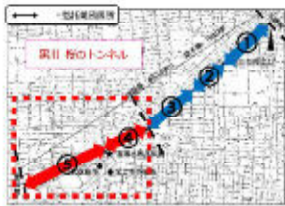
桜の開花状況



木津根橋付近

瑠璃光橋付近

黒川2号橋付近



- ★凡例
- I 良
 - II やや良
 - III 不良
 - IV 若く不良
 - V 枯死寸前
 - 調査時存在せず

※平成30年度 黒川の桜保全プロジェクト
サクラの健康診断 結果報告書 調査結果



<⑤ 北清水橋～城北橋>

- ・平成になってから植えられた比較的若いサクラ。成長が良く、とても健全な状態となっている。(金城橋から城北橋)



写真③ 健全なサクラの状態

- ・【樹木医アドバイス】調吹き^{※4}のリクラやヒコバエ^{※3}は将来的に残すリクラを選別したほうが良い。(北清水橋から金城橋)



写真④ 調吹きやヒコバエ

<④ 猿投橋～北清水橋>

- ・弱っているリクラは呼吸障害が原因と思われる。(猿投橋から北清水橋)
- ・新植されたサクラの生育が悪い箇所がある。原因は土壌不足と思われる。(志保橋【交差点】付近)



写真⑤ サクラの新植 (土壌不足)

- ・親水広場付近では、サクラの状態が良い。(親水広場)



写真⑥ 親水広場の様子

桜の開花状況



城北橋付近



黒川橋付近



金城橋付近

※助言 薩ヶ浦亭 (樹木医)

4. ワークショップメンバー(地域の皆さま)の意見

第1回ワークショップの資料配布にあわせて、地域の皆さまの黒川の桜への思いを確認するため、アンケートを実施しました。

※新型コロナウイルス拡大防止のため、第1回ワークショップを中止とし、替わって資料配布によるアンケートを行った。(回答者24名)

アンケートの結果を以下にまとめます。

問1)黒川の桜の良いところは、「街園があり散策が楽しめる」との回答が最も多い結果となりました。他にも「北区の魅力」や「市民の親しみ」に多くの回答が集まりました。



◆その他の意見◆

- ・桜の種類はそれほど多くはないが、花の開花の時期が異なるので長く楽しめる
- ・毎日の散歩(桜や新緑を眺めながら)が楽しい

問2)黒川の気にかかることは、「元気のない桜がある」との回答が最も多い結果となりました。その他にもいくつかの気にかかることを確認できました。



◆その他の意見◆

- ・2019年夏 カミキリムシを捕まえたことがあったので、その後増えていないか心配
- ・名城公園まで繋げる→名古屋の名所にする→地域に自覚が生まれる
- ・のり面のゴミが多い 散歩で犬の糞を川へ投げ込まれている
- ・衰弱木は台風等の時に危険ですので、伐採するのも必要
- ・整枝剪定がされていない。美樹がすくない

問3)興味のある市民活動は、「衰弱木・危険木のパトロール」「ゴミ拾い、除草」について多くの回答が集まりました。市民活動については、全体的に関わっていきたい思いがあることを確認できました。



◆その他の意見◆

- ・番号札取り付け、個別詳細管理
- ・今回のようなワークショップ
- ・散歩しながらいつも思うのですが、自転車の通行は危険ですのでやめていただきたい
- ・衰弱木の撤去後に更新木は市民から寄付をしていただいで、記念のラベルを付けて募集してみてもと思います
- ・黒川桜に興味を持つための勉強会・弘前方式、桜保全技術、他地区との保全情報ネットワーク作りなど

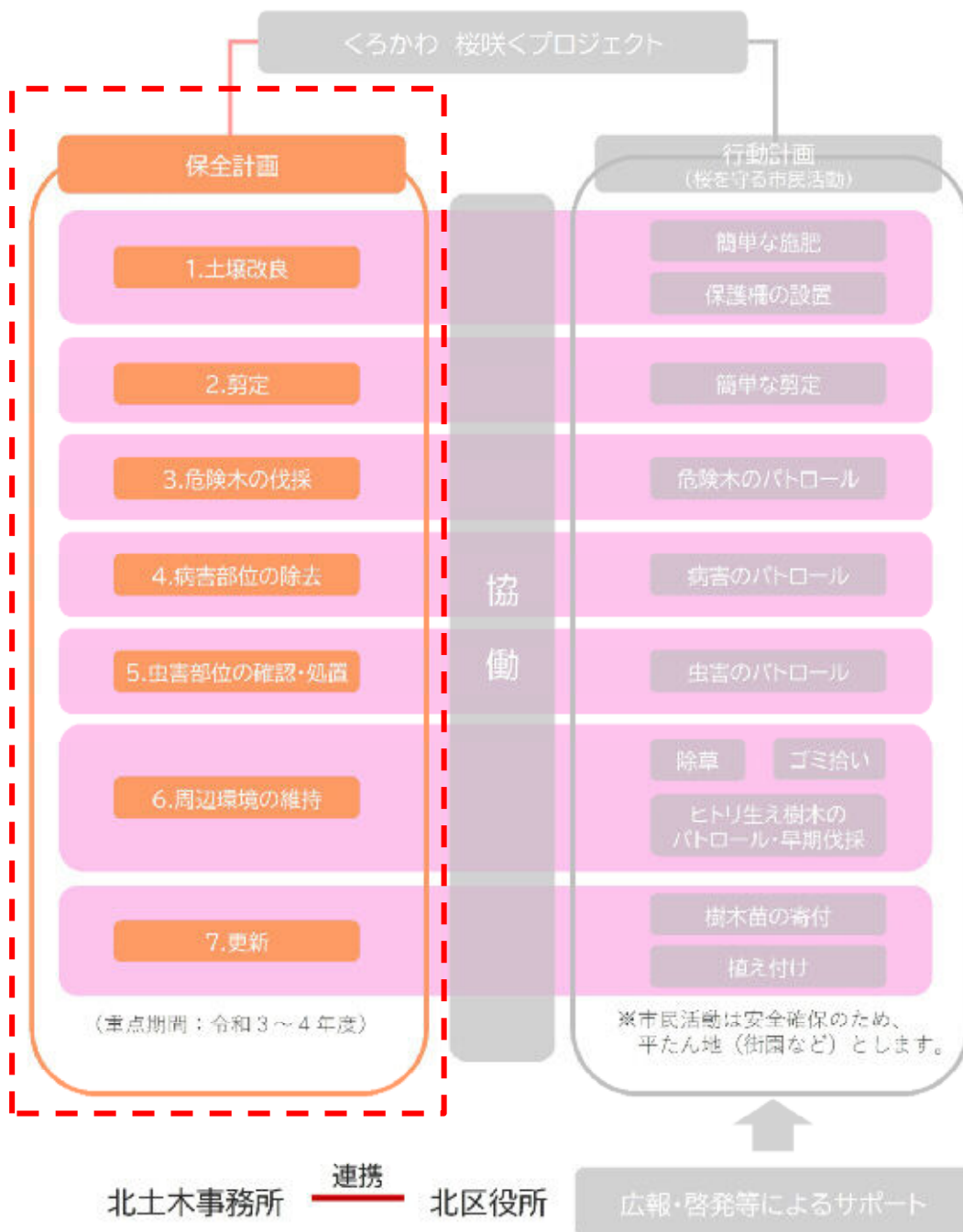
5. 保全計画

黒川の桜は全体的に衰弱したサクラが多いことから、健全性を高める必要があります。

黒川の桜を次世代に受け継いでいくため以下に示す7項目の対策を実施していきます。

サクラをはじめとする街園ならびに河川法面にある樹木の保全は、行政(北区役所、北土木事務所)にて行っていきます。なお、令和3年から令和4年の2か年を重点期間とし、早期の樹勢回復を目指します。

保全の手法を次のページ以降に示します。



1.土壌改良

対策項目

施肥(客土)

現状の課題

肥料不足



- ・歩道付近の桜は舗装で固められたり、人が歩いて締め固まることで、自然の物質循環の営みが阻まれ、肥料不足に陥っているものと推測されます。

対策手法

- ・衰弱木には、土壌改良・施肥等を行います。街園区域で人が立ち寄らない十分なスペースがあるところでは、肥料分を加えた客土を行います。
- ・樹木の根元直径の10倍を半径とする同心円上の4箇所に径20cm、深さ20cmの穴を掘り(なるべく側根を傷つけないように)、施肥後、掘取り土を丁寧に埋戻します。

(材料表)

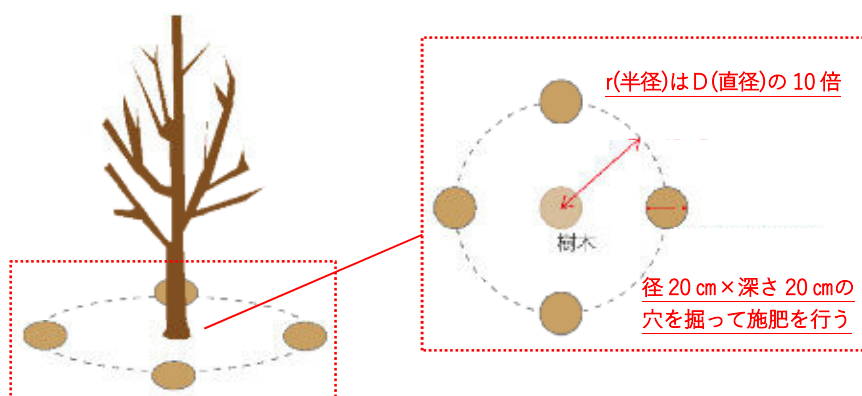
公園客土材料表

名 称	材 料 表				摘 要
	掘削土 4 (m ³)	砂 5 (m ³)	パーク堆肥 1 (kg)	発酵けいふん (kg)	
公園客土工	4.0	5.0	500	100	

【参考】土木工事標準仕様 名古屋市緑政土木局

説明図

(施肥箇所)



主な担い手

行政

市民

- ・施肥(客土)

—

樹木医
アドバイス

- ・根が地上部に出ているのは、土壌が固いため酸素を補給しようと地上部に根を露出しているため。土を被せると根が酸欠になるので、そのままが良い。

1.土壌改良

対策項目 施肥(固形肥料、打ち込み型肥料)

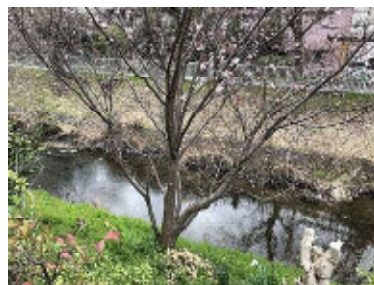
現状の課題

肥料不足



・歩道付近の桜は舗装で固められたり、人が歩いて締め固まることで、自然物質循環の営みが阻まれ、肥料不足に陥っているものと推測されます。

肥料不足(斜面)



・黒川沿いの斜面(河川区域)にもサクラが植えられています。ここでも衰弱木があるため、肥料不足が推測されます。

対策手法

固形肥料：衰弱木には、土壌改良・施肥等を行います。街園区域で客土を行うことができない場所では、固形肥料を投与します。

打ち込み型肥料：打ち込み型肥料の頭部にキャップをつけ、木づち等で打ち込みます。硬い土や石の場合には、あらかじめ鉄棒等で穴をつくり打ち込みやすくしておきます。

翌年も打ち込む場合は、場所を変えます。

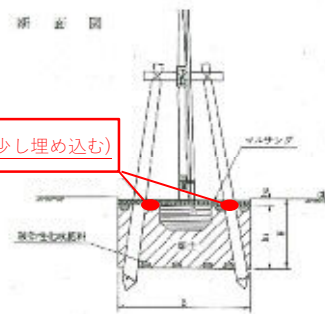
河川側の斜面地には有効な手法となります。

固形肥料

客土材料表 (街路用)

名称	砂 クッション用 不純物 (m ³)	パーク増肥 (kg)	材 料 表		備 考
			移動性化成肥料 N P K 23:2:10 (kg)	固形肥料 N P K 3:6:4 (kg)	
客土A	8.0	1000	7	7	
客土B	8.0	1000	7	1000	

※ (砂)、パーク増肥、保水材は均一に混合すること。

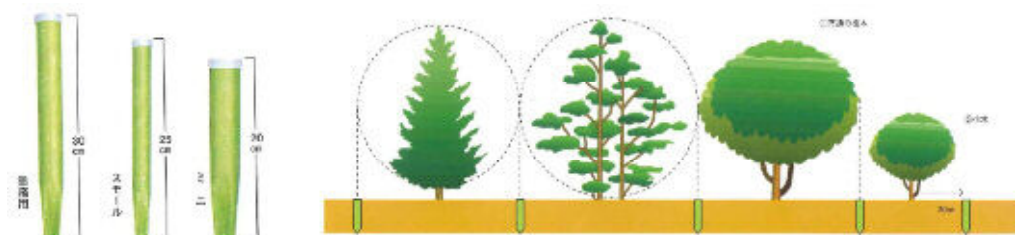


固形肥料(少し埋め込む)

【参考】土木工事標準仕様 名古屋市緑政土木

説明図

打ち込み型肥料



・肥料は、樹枝の先端付近に打ち込みます。(桜1本当たり5~6本が目安)

主な担い手




行政

市民



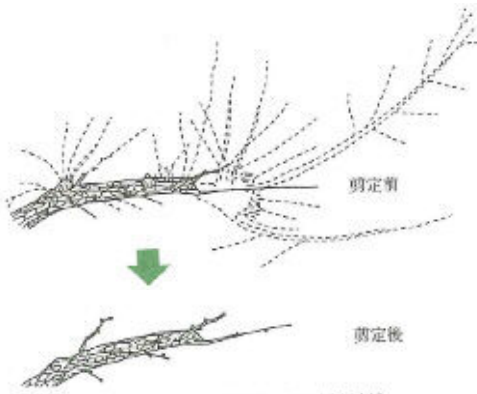
・施肥(打ち込み型肥料)

・施肥への協力

1.土壌改良

対策項目	保護柵設置(根の保護範囲、通気性)	
現状の課題	呼吸障害	 <ul style="list-style-type: none"> 健全度の低いサクラは、根系が深刻な呼吸障害になっていると思われるため、踏み固められないよう、立ち入りを制限する必要があります。
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> 根の保護範囲を定めて人の立ち入りを制限する保護柵を設置します。根の保護範囲は、少なくとも根元直径6~10倍の直径、または、枝張りの1/2~3/4のいずれかの大きい方の範囲を設定します。 保護柵は一般的にロープ柵や木柵を uses。 保護範囲の土壌表層は鉄ピンなどで軽くほぐします。 	
説明図	<p>締固めによる根への影響</p>  <p>【参考】改訂 緑化植栽マニュアル 一般社団法人 経済調査会</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護柵の設置により、人の侵入や圧縮による雨水の浸透の妨げを防ぎます。 <p>保護柵の設置例(猿投橋左岸側)</p> 	
主な担い手	<p style="text-align: center;">行政</p> <ul style="list-style-type: none"> 根の保護範囲の設定 保護柵の設置 	<p style="text-align: center;">市民</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護柵の設置への協力
樹木医 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 保護柵の柵内に落葉を集積してはいけない。ある程度の自然に積る落葉は必要だが、過剰にあると土壌中の酸素不足が起きて根に酸素が行渡らない。 	

2. 剪定

対策項目	切り返し剪定(枯枝、衰弱枝)	
現状の課題	<p>枯枝・衰弱枝</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>・樹齢の高いサクラには、枯枝や衰弱枝が多く見られます。剪定を行うことで、樹勢の回復を図ります。</p>	
対策手法	<p>・切り返し剪定は、適正な分岐点から長い方の枝を選び付け根を切り取ります。</p> <p>・骨格枝となっていた枯枝や古枝を切り取る場合は、将来的に育てる小枝または新生枝の派生する場所を見つけ、その場所の先を切り取ります。</p>	
説明図	<p>切り返し剪定</p>  <p>切り返し剪定前 切り返し剪定後</p> <p>【参考】平成 22 年度 黒川桜のトンネル調査事業 黒川の桜を楽しむ勉強会 講義資料</p>	<p>こぶ状枝の切り返し剪定</p>  <p>剪定前 剪定後</p> <p>図 7-14 切返し(こぶ状枝)</p> <p>【参考】改訂 緑化植栽マニュアル 一般社団法人 経済調査会</p>
主な担い手	行政	市民
	・切り返し剪定	—
樹木医 アドバイス	<p>・樹木が健全であれば形成層により、傷口である切断面が巻き込みを起こす。大きな枝だと巻き込めきれないので、枝が小さい間に切り落とすと良い。</p>	




2. 剪定

対策項目	切り詰め剪定(樹形の維持)	
現状の課題	<p>樹形の維持</p>  <p>・成長したサクラは、枝が伸びたままになっており、美観が損なわれているものがあります。</p>	
対策手法	<p>・切り詰め剪定は、樹冠の外に飛び出した枝を樹冠の大きさが整う長さに切り詰めます。</p> <p>・樹冠をつくるのにふさわしい枝を残します。</p>	
説明図	<p>切り詰め剪定</p>  <p>切り詰め剪定前 切り詰め剪定後</p> <p>【参考】平成22年度 黒川桜のトンネル調査事業 黒川の桜を楽しむ勉強会 講義資料</p>	<p>切り方の基本</p>  <p>図7-11 元節の</p>  <p>図7-12 切り方の基本</p> <p>① 芽の上部から反対側に深く傾斜をつけて剪定すると、残した芽の節節によって折れるおそれがある ② 芽の上部を少し残して芽の反対側(背面)に傾斜をつけて剪定する ③ 枝に対して直角に剪定すると芽の反対側(背面)が折れ込む ④ 芽と芽の中間で剪定すると芽の部分まで折れ込むおそれがある</p> <p>【参考】改訂 緑化植栽マニュアル 一般社団法人 経済調査会</p>
主な担い手	行政	市民
	・切り詰め剪定	—

2. 剪定

対策項目	ヒコバエの処理(剪定、育成)	
現状の課題	<p>ヒコバエ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・サクラの中には、根元にヒコバエが生えているものがあります。ヒコバエに養分が吸い取られ、樹木の上部が衰弱しているものがあります。 ・一方で伐採や衰弱した樹木の根元からもヒコバエが生えている場所もあります。草刈の際に刈り取られているものがありますが、伐採や衰弱した樹木の根元からのヒコバエは、剪定するのではなく、更新株として自家更新を促します。 	
対策手法	<p>(剪定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放置すると樹木の上部の養分が吸い取られるため取り除きます。ただし、衰弱した樹木から無数の小枝が出ている場合は、衰弱要因を取り除いてから剪定しなければ、全体を衰弱させる原因となるため注意が必要です。 <p>(育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伐採や衰弱した樹木の根元から生えるヒコバエによる自家更新を図るため、周辺環境(将来的な競合木の抑制、土壌改良)を考慮して育成するものを選別します。 ・幹から離れて伸びている枝を選んで残すと良い。 	
説明図	<p>ヒコバエの剪定</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin: 0 20px; font-size: 2em;">➔</div>  </div> <div style="margin-left: 700px;"> <p>樹勢が良い健全なサクラ</p> <p>樹勢が良いサクラはヒコバエにより養分が吸い取られるため剪定します</p> </div> <p>ヒコバエの育成</p> <div style="display: flex;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>サクラの切り株から生えているヒコバエは自家更新を促します</p> <p>主幹が枯れたり、衰弱が激しいサクラはヒコバエを育てて自家更新を促します</p> <p>ヒコバエの育成</p> <p>親木の切り株</p> </div> <div style="margin-left: 20px;">   </div> </div> <p style="text-align: right;">【参考】五条川(愛知県,岩倉市)の取り組みの事例</p>	
主な担い手	行政	市民
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒコバエの剪定 ・ ヒコバエの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒコバエの簡単な剪定




2. 剪定

対策項目	胴吹き処理(剪定、育成)	
現状の課題	胴吹き 	
	・サクラの中には、幹に生える胴吹きが出ているものがあります。養分が胴吹きに吸い取られ、樹木の上部が衰弱しているものがあります。	
対策手法	(剪定) ・樹木の損傷(強度の剪定や台風、落雷など)や生育環境の悪化が原因で幹から小枝が発生することがあり、放置すると美観を損ねます。剪定は、ヒコバエと同様に、樹木の状態を十分観察した上で処置する必要があります。	
	(育成) ・勢いの良い胴吹き枝を育成して、幹や梢を更新することも、選択枝の一つです。	
説明図	胴吹きの剪定 	
	胴吹きの育成 	
主な担い手	行政	市民
	・ 胴吹きの剪定 ・ 胴吹きの育成	・ 胴吹きの簡単な剪定

3.危険木の伐採

対策項目	伐採(倒木の危険性、根かえり、枯死寸前)		
現状の課題	<p>倒木の危険性</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・幹が腐食され、不安定な状態となっており、倒木の危険性があります。 	<p>根かえり</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・樹木が衰弱し、自分自身を支えることができずに倒れた跡があります。 	<p>枯死寸前</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・樹勢、樹形が悪く、枯死寸前となっています。
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木の恐れがあったり、根かえり、枯死寸前のものは、安全面を考慮して伐採をします。 		
説明図	 <p>【参考】平成 30 年度 黒川の桜保全プロジェクト サクラの健康診断 結果報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃からパトロールを行うことで危険木の早期発見ができ、安全性が高まります。 		
主な担い手	<p style="text-align: center;">行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険木の伐採 	<p style="text-align: center;">市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険木のパトロール 	

4.病害部位の除去

対策項目	病害防除(がんしゅ病、根頭がんしゅ病、材質腐朽病)		
現状の課題	がんしゅ病 	根頭がんしゅ病 	材質腐朽病 ベッコウダケ
対策手法	<p>・多くのサクラで「がんしゅ病」、「根頭がんしゅ病」、「材質腐朽病」による病害が確認されています。</p> <p>がんしゅ病：冬の間、こぶの下部で枝を剪定します。罹病枝の見落としが考えられるため、単年で終わらせるのではなく、2～3年は継続して取り組むことが必要です。</p> <p>根頭がんしゅ病：病根を取り除きます。取り除いた後は、殺菌剤を塗布します。病根は、必要に応じて、焼却し、土壌の取替え、焼土消毒などを行います。</p> <p>材質腐朽病：材質腐朽病(ベッコウダケ等)を見つけたら、倒木や落枝を予防するため、剪定を行います。樹勢の回復は、樹体の成長(太り)とのスピード競争が鍵となります。健全度が高く、成長が良好であれば、抗菌性物質の蓄積も強化されます。健全度が低い場合は、施肥・土壌改良等によって、健全性の回復が必要となり、幹や大枝が折損した場合は、胴吹きやヒコバエからの再生を試みることも有効です。</p>		
説明図	<p>病害の除去</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">【参考】平成30年度 黒川の桜保全プロジェクトサクラの健康診断 結果報告書</p> <p>・病害に侵されている枝を剪定して除去します。</p> <p>・施肥、剪定、土壌改良などによる樹勢向上の対応も効果があります。</p>		
主な担い手	行政	市民	
	・病害部位の除去	・病害のパトロール	
樹木医 アドバイス	<p>・黒川ではがんしゅ病はソメイヨシノに多く見られる。</p> <p>・木が弱ると病害が出やすくなるので、樹勢を良くする(太らせる)ことが対策となる。</p> <p>・材質腐朽病に感染すると幹の内部が菌で分解されてすかすかになっている。内部が朽ちて自分を支えきれなくなるため、健全に見えていた木が突然倒れることがある。</p>		

5.虫害部位の確認・処置

対策項目	虫害部位の確認・処置(穿孔性昆虫)	
現状の課題	<p>カミキリムシの被害</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・黒川では、カミキリムシによる被害が確認されています。被害が蔓延すると枯死する恐れがあります。 	<p>クビアカツヤカミキリ(特定外来種)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・黒川ではまだ確認はされていませんが、幹の内部を食い荒らす被害が起きるため、注意が必要です。
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に虫害(カミキリムシなど)のパトロールを行い、適宜、駆除を行います。 ・成虫を捕獲して種を同定し、生態を知ることも必要となります。 ・市内にて近年発生報告が出ているクビアカツヤカミキリについては、早期発見、駆除が必要です。 	
説明図	<p>虫害のパトロール</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・安全のため複数人で確認をしましょう。 ・パトロールを行う際は、記録(場所、日時、写真など)を残すことをお勧めします。 	
主な担い手	行政	市民
樹木医 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・虫害部位の確認・処置 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫害のパトロール
樹木医 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・幹の根元にフラス(糞と木くずが混ざったもの)があれば、穴の中にカミキリの幼虫がいる。ゴマダラカミキリの幼虫は1~2年穴の中で過ごす。 	

6.周辺環境の維持

対策項目	除草、ゴミ拾い	
現状の課題	<p>サクラ根元付近</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川沿いでは、比較的ゴミのない状況に維持されていますが、サクラの根元付近にゴミがあったり、雑草が生い茂っている場所もあります。 	
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨の翌日は、雑草を抜き取りやすい状態にあるのでお勧めです。 ・市民活動は安全確保のため、人力除草とします。 ・フェンスの外(河川断面)は危険を伴うため、行政で対応します。 	
説明図	<p>除草、ゴミ拾い</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px;">綺麗に維持されている黒川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除草、ゴミ拾いを行うことで、快適な環境が維持できます。 	
主な担い手	行政	市民
	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り、清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・除草、ゴミ拾い
樹木医 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の時期は土壌が乾燥するため草取りは避けたほうが良い。背の高い草を刈り取る程度に留める。 ・サクラの根と草の根は相性が良いので問題視しなくて良い。菌根菌がサクラの栄養源となる。 ・黒川の生態系を考えて、生きものとバランス良く共存していくことが重要。例えば冬の時期にサシガメムシが見られる。春以降にサクラにつくオビカレハなどの毛虫の体液を吸うので益虫と言える。 	

6.周辺環境の維持

対策項目	ヒトリ生え樹木の伐採	
現状の課題	<p>ヒトリ生え樹木</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・サクラの近くで、ヒトリ生えの樹木が生長して、サクラの生長を阻害している場所があります。ヒトリ生えの樹木が生長すると、サクラの競合木となるため伐採を行います。 	
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木が生長する前に伐採することが効果的かつ効率的であるため、早期に対処します。 	
説明図	<p>ヒトリ生え樹木の伐採</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・街園区域だけではなく、黒川沿いの斜面(河川区域)も同様に対処します。 	
主な担い手	行政	市民
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伐採 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒトリ生え樹木のパトロール ・ ヒトリ生えの樹木の早期伐採 (街園区域のみ)

6.周辺環境の維持

対策項目	競合木の伐採・剪定	
現状の課題	<p>競合木</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・街園には、サクラ以外の樹木もあり、サクラの競合木となっています。 ・サクラよりも樹高が高かったり、南に位置している場所ではサクラの日照不足が生じています。 	<p>サクラ同士の間隔</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・サクラが狭い間隔で植えられている場所があり、間隔が狭いことによる、日照障害が起きています。
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラの生育を阻害している競合木は必要に応じて伐採します。 ・伐採する樹木の選定は、サクラ以外の樹木の効用や街園管理の観点から総合的に判定して行います。 ・現実的に伐採が難しい樹木(大径木など)は、枝の剪定を行います。 	
説明図	<p>競合木の伐採、剪定</p> 	
主な担い手	行政	市民
	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採、剪定 	—

7.更新

7.更新	
対策項目	樹木の植え付け
現状の課題	<p>倒木後の土壌</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・病虫害などが原因で衰弱木・危険木となり、伐採されて桜のない区間があります。(新堀橋周辺など) ・病虫害に侵された桜のあった場所では、土壌中にセンチュウなどが残っている可能性があるため、新たに苗を植え付けても、同じく感染をして枯れてしまいます。
対策手法	<ul style="list-style-type: none"> ・病虫害に侵された桜の場所に桜を植え付ける場合は、土壌の入れ替えを行います。 ・新たに植える桜の品種は、病害に比較的に強い「ジンダイアケボノ」「コマツオトメ」などを選択すると良いでしょう。
説明図	<p>桜の植え付け、樹木苗の寄付</p>  <p>【参考】五条川の桜、新世代へ ジンダイアケボノに植え替え：中日新聞</p> <p>【参考】さくら植樹祭を開催しました：長久手市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様に市民の皆さまの協力(寄付など)をいただき、樹木苗を植え付けます。
主な担い手	行政
	市民
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植え付け場所の提供
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木苗の寄付 ・ 植え付け

6. 行動計画

黒川の桜は地域の皆さまの寄付により植えられ、地域の皆さまが手をかけて育まれてきた歴史があります。

これからも黒川の桜を守り育てるために、地域の皆さまの市民活動が不可欠です。桜を守る市民活動の参考としていただくための「行動計画」を以下にまとめます。なお市民の皆さまの活動は、安全に作業できる平たん地(街園など)とします。



行動計画(桜を守る市民活動)

現在、黒川の桜はやや衰退傾向にあります。施肥、剪定などにより生育環境を整え、弱った木を手入れすれば、再び元気を取り戻す可能性があります。そのためには地域の皆さまをはじめとする、市民の皆さまの日常の市民活動(清掃活動、パトロール、手入れ、植樹への協力)が重要になります。黒川の桜をこれからも地域の誇りとして次世代に受け継いでいくために、私たちにできることに取り組み、北区の宝として大切に育てていきましょう。



★注意事項
安全確保のため、安全な箇所を対象とします。